

SKYMENU 活用授業 実践レポート

お名前	小林 彰	学校名	国分寺市立第四小学校
実施学年	第四学年	教科	国語
单元名	漢字辞典を使おう		

《学びを深めたいポイント》

本单元では、漢字辞典の「音訓索引」「部首索引」「総画索引」など複数の引き方に触れ、目的に応じて使い分ける力を育てることを大きな目標とした。

本時では、SKYMENU の発表ノート機能を活用し、提示される問題をもとに実際に辞典を引く活動を中心に、辞書操作の手順を理解し、自力で調べる力を高めることをねらいとした。

既習事項として、児童は国語辞典の使い方は学んでいるが、漢字辞典は経験値が低い。本時では、電子化された問題提示と提出箱の共有機能を活用し、調べ方の違いを比較しながら、辞書への親しみと操作スキルを高めることを目指した。

《SKYMENU 活用のポイント》

(1)問題提示の効率化

- ・発表ノートには3種類の引き方に応じた問題を用意した。
- ・児童は提示されたページをタップするだけで次々に問題に挑戦でき、紙教材では難しい「多問題・即時解決」の学習が可能になった。

(2)のびのび調べられるワークシートとしての機能

- ・提出箱機能を使い、各自が調べた読み方・熟語などを記入した画面を即座に共有できた。
- ・紙のワークシートは集めるだけで時間がかかるが、提出→一覧表示→比較→振り返りを授業内で完結できた。

(3)比較・共有で学びを深める

- ・提出箱には30名以上の解答が並び、「同じ漢字でも人によって引き方が違う」「訓読みが複数あることに気づいた」など、多様な気づき生まれた。

《実践内容》

	学習活動	SKYMENU 活用場面	活用のポイント
導 入	1. 既習の辞典の使い方を確認する。 2. 本時の課題「3種類の引き方を使って漢字を調べよう」を共有する。	・教材「漢字辞典を使おう」のメニュー画面を提示	・視覚的に3種類の引き方を示し、学習の見通しをもたせた。
展 開	3. 音訓索引・部首索引・総画索引の3種を使って漢字の読み方を調べる。 4. 提出箱に解答を提出し、全体で共有する。 5. 自分で問題を1つ作成し提出する活動。	・児童が各問題ページを開き、辞書を使って記入。    ・問題作成ページ→提出→表示 	・辞書のページを探す手順が明確になり、個別ペースで学習が進んだ。 ・瞬時に全児童の解答が確認でき、誤りの比較や気づきが生まれた。 ・お互いの作成した問題を見合いながら活動に取り組めたため、「部首で調べると分かりにくい漢字がいいな」など、児童の発想が広がった。
ま と め	6. 3種類の調べ方を振り返り、「どの場面でどの引き方が便利か」をまとめる。	・提出箱の画面を見ながら集団で振り返り。 	・調べ方の違いを理解し、「使い分け」に意識が向いた。

《実践を振り返って》

漢字辞典の学習では、辞書を引く時間が長くなりがちだが、SKYMENU の発表ノート機能と提出箱の活用により、以下の3点が可能になった。

1. 多くの問題に触れられる活動量の確保

全てのスライドを「第〇問」と書かれたテキストボックスで隠した状態で児童に配布することで、「早く次の問題へ進みたい」「次の問題が気になる」というゲーミフィケーション要素が働き、多くの児童が自発的に辞書を引き続けていた。

2. 即時共有による学びの深化と協働的な学習の実現

ライブ公開提出箱機能によって、躓いている児童に対して教師が声をかけやすく、素早いフォローが可能だった。また、ライブ公開提出箱で躓いている児童を見つけた他の児童が「絵画だと調べやすいよ」などのアドバイスをする姿も見られた。

3. 問題作成による主体的な学びの成立

作った問題を即時にライブ公開提出箱機能で共有することで、お互いに問題を出し合って学びを深め合う姿が見られた。

辞典を引く目的は「言葉を理解するために自分で調べる力を育てること」であるが、今回の授業は、児童が積極的に調べ、比較し、考える姿が多く見られ、単元のねらいに迫る学びとなった。